

## 「共生社会とインクルーシブ教育」

### 『ノーマライゼーションの社会を構築』

☆ノーマライゼーションの社会を構築するための

\*精神的支柱

- ・シンパシー（同情・憐憫）からエンパシー（共感・共生）
- ・知、情、意のインクルーシブ

\*パフォーマンスとしてのツール=道具

教育（インクルーシブ教育）・スポーツ・芸術（芸能・音楽・美術など）・働くなど

#### 《福祉の立場からのインクルーシブ教育》

- ・1993年に国連総会で採択された「障害者の機会均等化に関する標準規則」には、障害児の教育は原則として 統合教育であると宣言。「社会のあらゆる側面における障害を持つ人々の積極的かつ完全なインクルージョンと、国連の主導的役割」という決議がされた。
- ・1994年6月に、スペインのサラマンカでユネスコによる「スペシャルニーズ教育に関する世界会議」が開催され、「サラマンカ宣言」には、「インクルーシブな志向をもつ通常の学校こそが、差別的な態度と闘い、全ての人を喜んで受け入れる地域社会を創り、インクルーシブな社会を建設し、万人のための教育を達成するもっとも効果的な手段である」と明言。
- ・インクルーシブ教育以前の統合教育（インテグレーション）は、二元論的発想で子どもを障害のある子どもとしない子どもというグループに分け、障害のある子を、ない子のメインストリームに合流させようとする考え方であった。しかしインクルージョンは、子どもは一人一人皆個性を持ったユニークな存在であり、各自異なっていることが当たり前であり、すばらしいことなのだという基本理念に立って、すべての子どもを包みこむ（inclusive）教育システム（一元論）の中で、特別な教育的ニーズに対応していく事とした。インクルージョンの概念では、障害児（者）だけでなく、学習障害児（LD）、不登校児、学習の遅れがある子、また逆に英才児なども含まれる事が、これまでの考え方と大きく異なった。

私が思っている事…初めに

- ・障害者にはハンディキャップがあるが、アブノーマルではない。であるからして、アブノーマルな支援はしない。小さな子ども扱いや見下した接遇や疎んじた支援など絶対にしない。その年齢、その障害に応じたノーマルな支援を行う。

①ノーマライゼーションの理念・考え方

②障害がある人が働くこととは

③障害がある人が町で暮らし、働くとは

④共生社会が生み出すモノ

## ①ノーマライゼーションの考え方

- ・ノーマライゼーションとは、一日の普通のリズム 朝ベッドから起きること  
たとえ君に重い知的障害があり、身体障害があっても服を着ること  
そして家を出、学校か、勤めに行く ずっと家にいるだけではない  
朝、君はこれから的一日を思い 夕方、君は自分のやり遂げたことを振返る  
一日は、終わりではなく続く単調な24時間ではない  
君は、当たり前の時間に食べ、普通の洋服を着る  
幼児ではないなら、スプーンだけで食べたりはしない  
ベッドではなく、ちゃんとテーブルについて食べる  
職員の都合で、まだ日の暮れぬうちに夕食をとったりはしない
- ・ノーマライゼーションとは、一週間の普通のリズム  
君は自分の住まいから仕事場に働きに行く  
そして、別の所に遊びに行く 週末は楽しい集いがある  
そして、月曜日にはまた学校や職場に行く
- ・ノーマライゼーションとは、一年の普通のリズム  
決まりきった毎日に変化をつける長い休みもある  
季節によってはさまざまな食物、仕事、行事、スポーツ、余暇が楽しめる  
この季節の変化の中で私達は豊かに育てられる
- ・ノーマライゼーションとは、当たり前の成長をたどること  
子供の頃は夏のキャンプに行く  
青年期にはオシャレや、髪型、音楽、異性の友達に興味を持つ  
大人になると、人生は仕事や責任でいっぱい  
老年期はなつかしい思い出と、経験から生まれた知恵にある
- ・ノーマライゼーションとは、自由と希望を持ち、周りの人もそれを認め、  
尊重してくれること  
大人は、好きなところに住み、自分にあった仕事を自分で決める  
家にいて ただテレビを見ていないで、友達とボウリングに行く
- ・ノーマライゼーションとは、男性、女性どちらにいる世界に住むこと  
子供も大人も、異性との良い関係を育む  
十代になると、異性との交際に興味を持つ  
そして大人になると、恋に落ち、結婚しようと思う
- ・ノーマライゼーションとは、平均的経済水準を保証されること  
誰もが、基本的な公的財政援助を受けられる そのための責任を果たす  
児童手当、老齢年金、最低賃金基準のような保障を受け経済的安定をはかる  
自分で自由に使えるお金があって、必要なものや好きなものが買える

- ・ノーマライゼーションとは、普通の地域の普通の家に住むこと  
知的障害だからといって、20人、50人、100人の他人と大きな施設に住むことはない それは地域社会から孤立してしまうことだから  
普通の場所で、普通の大きさの家に住めば、  
地域の人たちの中にうまくとけ込める

スウェーデン ベンクトニイリエの言葉  
 「やさしい隣人達と共に暮らす地域の温かさより」より  
 監修 日本知的障害者福祉連盟選書 渡辺 勘持  
 デンマーク「ノーマライゼーションの父」…バンクミケルセン

## ②障害ある人が働くということは

### \*就労継続支援（授産支援）の作業と生活介護（更生）の創作活動

- ・作業とは…決められた基準に沿った（品質・量・種）社会作業を行う。作業に人が合わせる。
- ・創作活動とは……障害が重いゆえに社会作業をその人に合わせる。
- ・障害者の労働対効果…通所施設の支援と労働性。  
就労を重視し、高い工賃を目指す福祉工場。  
訓練と福祉的就労（作業）の機能を併せ持つ授産施設。  
社会参加、生きがいを重視し、創作・軽作業を行うデイサービス機能を持つ施設。  
就労自立のための訓練・評価機能を充実し、作業能力の高い障害者については、  
福祉施設に滞留することなく、福祉工場や一般就労の場につけるようにする。  
施設機能に着目し、通所施設について障害種別間の一部相互利用（混合利用）  
を促進する。

### \*「障害がある人が働くということ」

佛教大学教授 鈴木勉 弁

障害者が働く事は、経済性の観点からみると、費用対効果や市場競争など有益性がなく非合理的である。有効労働能力に基づく機能性を精察すれば、障害者が働く労働能力は一般労働性としての評価はされないだろう。しかし、労働性とは能力のみが評価されることであろうか？とするならば能力性は能力別と云う差別を生み、働く場（雇用の場など含む）から障害者が排除されてしまう。人の労働性を経済性だけで測って良いものであろうか？経済性のみでは測れない社会的労働性から見た障害者の労働性を「人間的利益」として評価されるべきであろう。（human gains）  
 障害者が働くということはその人の①人間観関係の改善 ②病気の減少 ③依存性の減少 ④余暇活動の改善 ⑤精神的疾患の改善などが生じ、障害者の労働は客観的な経済的価値に換算できない価値を社会的価値として評価をすることができる。いわゆる錢金には置き換えられない人間的価値を輝かせる評価である。

### ③障害がある人が町で暮らし、働くとは

#### \*1981年国際障害者年行動計画

「ある社会がその構成員のいくらかの人々を締め出すような場合、それは弱くもろい社会なのである。障害者は、その社会の他の異なったニーズを持つ特別な集団と考えられるべきではなく、その通常の人間的なニーズを満たすのに特別の困難を持つ普通の市民と考えられるべきなのである。」

「最も弱く、社会から逸脱した価値のない人たちだと思われてきた知的障害を持つ人々の自己決定の問題を解決することができれば、私たちは、彼ら以外の価値が低いと見られてきた人たちや他の障害をもつ人たちに、有意義でその社会にあった、あたり前の自己決定を保障することのできる新しい社会を作ることができるであろう。そうすれば、知的障害をもつ人々以外の障害をもつ人々の生活条件をごく普通にすることができる、生活の質を向上させることにもなる。自己決定の権利が知的障害を持つ人々に尊重されないなら、他の多くの人々に対しても、この権利は尊重されることはない。」

#### 1975年 「障害者の権利宣言」

「障害者は、人間としての尊厳が尊重され、生まれながらの権利を有している。障害者は、その障害の原因、特質及び程度にかかわらず、同年齢の市民と同等の基本的権利を有する。このことは、まず第一に、可能な限り通常のかつ十分満たされた相当の生活を送ることができる権利を意味する。」

「障害者は、他の人々と同等の市民権及び政治的権利を有する。知的障害者の権利宣言の第7条は、知的障害者のこのような諸権利のいかなる制限又は排除にも適用される。」

「障害者は、可能な限り自立させるよう構成された施策を受ける資格がある。」

「障害者は、補装具を含む医学的、心理学的及び機能的治療、並びに医学的・社会的リハビリテーション、教育、職業教育、訓練リハビリテーション、介助、カウンセリング、職業あっ旋及びその他障害者の能力と技能を最大限に開発でき、社会統合又は再統合する過程を促進するようなサービスを受ける権利を有する。」

### ④共生社会が生み出すモノ

#### \*ソーシャルダーヴィジニアムと優勝劣敗

- Social Darwinism=ダーウィンの進化学説。特に生物界における生存競争、適者生存の原理を人間社会に適応した。社会に闘争と優勝劣敗の原理が支配すると主張する思想である。
- 優勝劣敗や弱肉強食と言った競争原理は、強者の一方的な論理だといえる。同じく優者だけを残そうと言う社会ダーヴィジニアムや優生学などは、科学の鎧で飾った支配者に好都合な論理であって、いずれ破綻をきたす性質のものだ。進化や進歩は単層の社会から起こり得ない。複層性あるいは多様性を内包する社会こそがそれらを可能にする。  
…人類学者 河合雅雄

#### \*障害者の自立とは

何かができるようになることへの仕向けではない、何かが出来ないと自立生活ができないと云うものでもない。

- ・「可能な限り自分らしい生活を営みたい」
  - ・「自分の人生に主体的・積極的に関わり自分の人生を自分自身で創り上げていきたい」
  - ・家族として、「人間としての尊厳ある人生と生活を送ってもらいたい」
- などという意識が障害者の「自立」の価値観を見いだした。福祉サービスを使いこなしながら、社会サービスを利用しながら、その結果何かができるようになる。その本人のエネルギーに対して他者が「支援」をし、「自立支援」という考え方を位置づけた。

#### 《障害者基本法》…障害の自立と社会参加

- ・全て障害者は社会を構成する一員として社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されること。
- ・全て障害者は、可能な限り、どこで誰と生活するについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられない。

共生社会…障害者が町で暮らし、働くということは、障害から見えてくる社会の原点が明らかになる。バリヤフリー・ユニバーサルデザインなどであるが、例えば意思疎通(コミュニケーション)の在り方についてどのような方策がとられなければならないのか、以前であれば、誰もが日本語の読み書きができ、話せるという単一の言語能力に頼った意思疎通(コミュニケーション)の取り方だった(選挙は今だそうである)。しかし、言語(語彙)の問題、手話、点字、身振り手振り、視覚など多様な配慮を必要とする。以下次の10項目において障害があることによる不自由さ不便さの原点を明らかにすることで、見えてくる価値が生じる。①コミュニケーション②身辺処理③家庭生活④社会的技能⑤地域生活の利用⑥自己指南性⑦健康と安全⑧実用的学業⑨レジャー⑩仕事など、この我々の営みの一つひとつの原点を明らかにすることにより、深い理解や同じ思いなど共生社会の構築の支えとなる。障害があるから見えてくるものの価値は社会の原点が明らかとなり社会の役割をはっきりさせることとなる。タイプライター、ストロー、など障害がある人の生活上のニーズからうまれた。(ユニバーサルデザインの提唱者ドナルド・メイツ氏自身障害者であった。)つまり、健常者中心のモノの考え方や生産物や文化やスポーツでは社会の発展が单層化してしまう。障害者をはじめ人種、年齢、性差など多様なニーズに応えていく事が、社会がより複層化した進化をする。これがノーマライゼーションの社会であり、平和を追及する文化社会と思う。我々が目指している社会である。

#### …終わりに

- ・障害者はその障害によってナニナニができない人ではなく、ナニナニの支援があると、普通の人が行う何かができる人である。であるからして、強みを大きく多く持っている一般社会からの歩み寄りによって、障害者が持つ力はより発揮される。これが共生社会であり、共生社会が促進されることとは、社会全体の財産となり、経済的にも活性化される。

東京都育成会 理事  
豊島区立 駒込生活実習所・福祉作業所  
所長 中野雅義